

## 支部活動の思い出

上館 民夫

先輩ならびに現役の支部会員の努力により、支部設立 50 周年を迎えられ、心からお祝い申し上げます。私と支部とのお付き合いは昭和 61 年に関東支部から北海道支部に転入して以来 20 年になります。この間、冰雪セミナー、冬季研究発表会の実行委員長、最後に支部長といわゆる支部三役を勤め、微力ながら支部活動に貢献することができました。ここでは、支部活動を通じて印象に残っている思い出を幾つか紹介します。

当支部の特長の一つとして活発な出版事業があります。平成 4 年度に東北支部との合同で「分析化学反応の基礎－演習と実験」の改訂版を培風館から出版することになり、唯一編集委員としてお手伝いしました。編集委員長には東北支部の四ッ柳隆夫先生（東北大学工学部）が、編集委員には東北支部から大関邦夫先生（弘前大学理学部）と阿部重喜先生（山形大学工学部）、当支部からは中村 博先生、金野英隆先生と私の 3 名が加わりました。当支部が他の支部と合同で出版事業を行うのははじめての経験であり、編集会議の実施方法・経費負担あるいは印税配分など調整しなくてはならない案件は数多くありましたが、両支部の努力で克服し、7 回の合同編集会議を経て、平成 6 年 9 月に改訂版を無事発行することができました。分析化学の教科書として全国的に使用され、多いときで印刷部数は年約 1,300 部を数えました。改訂版を出版してから、10 数年が経過し、学生のレベルも、大学の教育環境も少しずつ変わって来ています。今後、支部では新たな改定版の出版に向けて検討を開始すると聞いております。より多くの教育の現場で愛される分析化学の教科書が再度当支部から出版されますことを期待しております。

当支部の代表的な行事に冰雪セミナーがあります。平成 12 年度の実行委員長を担当しましたが、その年、ちょっとしたハプニングに遭遇してしまいました。例年、会場は「清巒荘」（国家公務員共済組合連合会定山溪保養所）になっており、前年度のセミナーが終了した時点で次年度の予約をするのが慣例となっていました。その当時、税金の無駄遣いのシンボルとして、国が管理運営している宿泊施設がマスコミ等で取り上げられ、不採算な宿泊施設の閉鎖が始まっておりました。なんとなく気になり、8 月中頃、来年のセミナーの開催が大丈夫であることを確認するため、清巒荘に電話をしました。ところが、近々予約者に年内で営業を停止することを連絡するところであったという返事です。なんともお役所返事なので納得できなかったのですが、会場をどうするか頭を抱えてしまいました。定山溪で 50 名程度が入る会議室と宴会場がある宿泊施設はたくさんあります。しかし、会費をあまりアップしない条件で選ぶとなるとなかなか難しいことがわかってきました。そこで、石狩温泉「番屋の宿」、定山溪の溪流荘（札幌市職員共済組合定山溪保養所）などを見てまわり、また、企業の社員研修所などにも問い合わせをしました。その結果、会費は若干アップするが会議室もあるので、溪流荘にすることにしました。その後、溪流荘での開催が定着したみたいでなによりと思っています。今年、夕張市の財政破綻が話題になりましたが、札幌市にはがんばってもらい「溪流荘」が「清巒荘」の二の舞にならないように祈るのみです。

私は平成 15 年度に支部長になりました。前年度に年会も終わり、北見の討論会は 2 年後ということもあり、支部長としては比較的仕事が楽な年かと思っておりましたが、やっかいな問題が出てきました。ご存知のように、日本は大きな財政赤字を抱えています。財務当局は財政を改善するため、税金を取れるところからとろうと虎視眈々と狙っています。これまで、学会は税制面で優遇されてきましたが、財政的に余裕のある学会からはそれなりに税金を頂こうという動きができました。分析化学会本部にも文科省などの指導が入りました。そのさい、繰越金の額をリーズナブルな数字にするように指摘がありました。本部自身の繰越金は少ないのですが、支部によって異なりますが、各支部の繰越金の合計はかなりの額になります。したがって、本部と支部との連結決算を行うと、分析化学会全体としてかなりの額が繰越されることとなります。そこで、本部から各支部に対して繰越金を少なくするように協力要請がなされました。繰越金のうち、毎年、使用目的が明確なものについては基金として計上することにより、繰越金の額を減少することができます。そこで、当支部では毎年、緑陰セミナーに援助を行っていることから、「北海道支部若手会員育成基金」を立ち上げ、平成 16 年度からこの基金を用いることにしました。支部会員の叡智を集めて、今後とも支部の財政が健全に運用されますことを期待しております。

最後に、これからも北海道支部がますます発展されますことを心からお祈り申し上げます。

(北海道大学大学院工学研究科)